



平成20年12月期 第3四半期財務・業績の概況

平成20年11月4日

上場会社名 **アース製薬株式会社**
 コード番号 4985
 代表者 代表取締役社長 大塚 達也
 問合せ先責任者 役員待遇経営企画部部长 下川 善通

上場取引所 東証一部
 URL <http://www.earth-chem.co.jp>
 TEL (03)5207-7456

(百万円未満切捨て)

1. 平成20年12月期第3四半期の連結業績 (平成20年1月1日～平成20年9月30日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
20年12月期第3四半期	83,033	6.3	10,595	△4.8	10,821	△5.3	5,844	△2.7
19年12月期第3四半期	78,092	5.0	11,127	6.6	11,429	6.2	6,005	3.2
19年12月期	89,354	—	5,324	—	5,741	—	2,773	—

	1株当たり四半期(当期)純利益		潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益	
	円	銭	円	銭
20年12月期第3四半期	292	67	291	10
19年12月期第3四半期	302	33	299	73
19年12月期	139	45	138	37

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	百万円	百万円	百万円	%	円	銭	
20年12月期第3四半期	79,845	44,355	44,355	44,355	50.7	2,018	10	
19年12月期第3四半期	77,482	43,104	43,104	43,104	51.0	1,978	21	
19年12月期	63,020	39,969	39,969	39,969	57.6	1,819	15	

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー		投資活動によるキャッシュ・フロー		財務活動によるキャッシュ・フロー		現金及び現金同等物期末残高	
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
20年12月期第3四半期	9,033	△2,041	△2,041	△2,041	△1,448	△1,448	19,028	19,028
19年12月期第3四半期	5,655	△111	△111	△111	△1,152	△1,152	17,154	17,154
19年12月期	2,177	△360	△360	△360	△988	△988	13,612	13,612

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金					
	中間期末		期末		年間	
	円	銭	円	銭	円	銭
19年12月期	—	—	70	00	70	00
20年12月期	—	—	—	—	75	00
20年12月期(予想)	—	—	75	00	75	00

3. 平成20年12月期の連結業績予想（平成20年1月1日～平成20年12月31日）【参考】

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通 期	92,754	3.8	5,654	6.2	6,123	6.6	3,116	12.4	155	85

(注) 1株当たり当期純利益は、期初の発行済株式総数19,960,000株に新株予約権行使による普通株式の増加分113,000株を加算し、期末発行済株式総数を20,073,000株とした場合の期中平均株式数により算出しております。

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
 (2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有
 (3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無

〔(注) 詳細は、5 ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他 をご覧ください。〕

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報に基づき判断した予想であり、不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は業況の変化等により、大きく異なる場合があります。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期におけるわが国の経済は、米国のサブプライムローン問題に端を発した世界的な金融市場の混乱に加えて、原材料価格の高騰等による企業業績の悪化懸念や、物価上昇を背景とした個人消費の停滞が見られるなど、先行きに不透明感が強まる状況でありました。

このような状況のなか、当社グループは引き続き「価値創造による脱価格競争」をテーマに掲げ、付加価値の高い製品や総合的な環境衛生サービスを提供するとともに、価値を訴求することに注力した営業活動を展開してまいりました。

以上の結果、当第3四半期における売上高は830億33百万円(前年同期比6.3%増)、営業利益は105億95百万円(前年同期比4.8%減)、経常利益は108億21百万円(前年同期比5.3%減)、四半期純利益は58億44百万円(前年同期比2.7%減)となりました。

なお、当社グループは殺虫剤の売上構成比が高いため、売上高は上半期に偏るといった季節変動要因がある一方、人件費等の固定費は年間を通じてほぼ均等に発生するため、四半期毎の売上高や利益には著しい相違があります。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

家庭用品事業

		(百万円)			
		前年第3四半期	当第3四半期	増減額	増減率
売上高	家庭用医薬品殺虫剤	6,681	6,305	△376	△5.6%
	家庭用一般殺虫剤	33,127	36,195	3,068	9.3%
	ペット用殺虫剤 ※	1,831	—	△1,831	—
	殺虫剤部門 計	41,640	42,500	860	2.1%
	口腔衛生用品	15,719	16,787	1,067	6.8%
	入浴剤その他	7,863	8,645	781	9.9%
	日用品部門 計	23,583	25,432	1,849	7.8%
	ペット用品部門 ※	—	2,358	2,358	—
	その他製商品部門	1,366	867	△499	△36.5%
	合計	66,589	71,158	4,569	6.9%
営業利益		10,440	9,983	△457	△4.4%

(注) 売上高は外部顧客に対する売上高であります。

※ 前年は「殺虫剤部門」に含めておりました「ペット用殺虫剤」を、「ペット用品部門」に変更・新設いたしました。これは平成20年1月31日付で連結子会社としたペット用アクセサリ用品を取り扱う(株)ターキーの製品と、ペット用殺虫剤を合わせた表示にしたものであります。なお、当第3四半期において、ペット用品部門に含まれる旧区分におけるペット用殺虫剤の金額は19億6百万円であります。

家庭用品事業におきましては、数多くの新製品を発売するとともに、最適な売場作りを行う専門スタッフの増員により提案型営業をさらに強化し、市場の活性化と売上の拡大に努めた結果、当事業における売上高は711億58百万円(前年同期比6.9%増)となりました。営業利益は売上構成比の変化や原材料価格の高騰、販売管理費の増加により99億83百万円(前年同期比4.4%減)となりました。

殺虫剤部門は、医薬品のくん煙剤「アースレッド」及び樹脂蒸散剤「バポナ」はここ数年続いている市場縮小の影響を受け売上は減少しましたが、近年需要が拡大している不快害虫用殺虫剤及び虫よけ用品等が好調に推移し、前年発売しヒット商品となったコバエ誘引殺虫ポット「コバエがホイホイ」や、新製品の設置型虫よけ「バポナ虫よけネットW」が売上拡大に寄与しました。また、ハエ・蚊用エアゾール「アースジェット」や、新製品のスプレー式蚊取り「お部屋の4角にチュッとすることで蚊に刺されない空間を作るスプレー」も好調でありました。これらの結果、当部門における売上高は425億00百万円(前年同期比2.1%増)となりました。なお、前年に含まれていたペット用殺虫剤を除いた場合の実質的な前年同期比は6.8%増となります。

日用品部門は、口腔衛生用品が堅調であったことに加えて、当期も多くの新製品を発売し品揃えを強化したことにより好調に推移しました。特に、洗口液「モンダミン」や新製品の液状歯磨き「ママはボク(ワタシ)の歯医者さん」が売上に寄与しました。また、レキットベンキーザー社との販売提携品目に、本年9月より薬用石鹸「ミューズ」が加わり、食洗機用洗剤「フィニッシュ」とともに売上拡大の一因となっております。これらの結果、当部門における売上高は254億32百万円(前年同期比7.8%増)となりました。

ペット用品部門は、新製品の寄与や連結子会社となった(株)ターキーの売上が加わったことにより、売上高は23億58百万円となりました。

総合環境衛生事業

(百万円)

	前年第3四半期	当第3四半期	増減額	増減率
売上高	11,502	11,874	372	3.2%
営業利益	1,182	1,137	△45	△3.8%

(注) 売上高は外部顧客に対する売上高であります。

総合環境衛生事業におきましては、安定した収益が見込める年間契約の増加を目指し、各企業に対応した独創的な品質保証の仕組みを取り入れたサービスを、主な展開領域である食品・医薬品・化粧品業界に加えて石油化学・I C関連業界へ広げ、積極的に新規顧客の獲得に努めました。また、既存顧客に対しては、より高度で良質なサービスの提供を心がけ、顧客満足度の向上と長期間にわたる契約の確保に努めてまいりました。

以上の結果、当事業における売上高は118億74百万円(前年同期比3.2%増)となりましたが、営業利益は人件費の増加や営業所新設に伴う費用の発生等により11億37百万円(前年同期比3.8%減)となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期の財政状態は以下のとおりであります。

総資産は、前連結会計年度末と比べて168億24百万円増加し798億45百万円となりました。これは、売上債権及び有価証券が増加したことなどによります。

負債は、前連結会計年度末と比べて124億38百万円増加し354億89百万円となりました。これは、仕入債務及び未払法人税等が増加したことなどによります。

純資産は、前連結会計年度末と比べて43億86百万円増加し443億55百万円となりました。これは、利益剰余金が増加したことなどによります。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末より6.9ポイント減少の50.7%となりました。

(連結キャッシュ・フロー)

営業活動の結果、増加した資金は90億33百万円となりました。これは、売上債権の増加が89億95百万円ありましたが、税金等調整前四半期純利益が104億85百万円、仕入債務の増加が33億34百万円あったことなどによります。

投資活動の結果、減少した資金は20億41百万円となりました。これは、有形固定資産の取得による支出が11億41百万円、投資有価証券の取得による支出が9億43百万円あったことなどによります。

財務活動の結果、減少した資金は14億48百万円となりました。これは主に、配当金の支払が13億97百万円あったことによります。

以上の結果、当第3四半期における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べ54億15百万円増加し190億28百万円となりました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当第3四半期の「営業利益」、「経常利益」、「四半期純利益」は前年を下回って推移しておりますが、全体的に計画どおり進捗しており、平成20年2月14日発表の通期の連結業績予想に変更はありません。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

該当事項はありません。

(2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用

1. 棚卸資産については実地棚卸を行わず、帳簿残高によって算定しております。
2. 法人税等の会計処理については、一部簡便な方法により税金費用を算定しております。
3. その他影響額が僅少な項目につき、一部簡便な方法を採用しております。

(3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更

該当事項はありません。

5. (要約) 四半期連結財務諸表

(1) (要約) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円、%)

科 目	前年同四半期末 (平成19年12月期 第3四半期末)	当四半期末 (平成20年12月期 第3四半期末)	増 減		(参考) 前期末 (平成19年12月期末)
	金 額	金 額	金 額	増減率	金 額
(資産の部)					
I 流動資産	56,607	57,630	1,022	1.8	41,910
1. 現金及び預金	8,732	11,384	2,651		11,034
2. 受取手形及び売掛金	22,569	19,757	△2,812		10,676
3. 有価証券	10,890	10,029	△861		4,783
4. 棚卸資産	12,412	13,019	606		13,103
5. その他	2,001	3,439	1,437		2,312
II 固定資産	20,875	22,215	1,339	6.4	21,109
1. 有形固定資産	15,208	15,723	515		15,264
2. 無形固定資産	618	772	153		713
3. 投資その他の資産	5,048	5,719	671		5,131
資産合計	77,482	79,845	2,362	3.0	63,020
(負債の部)					
I 流動負債	31,855	32,737	882	2.8	20,643
1. 支払手形及び買掛金	17,473	15,990	△1,482		12,422
2. 未払金	5,358	5,470	111		4,720
3. その他	9,023	11,276	2,252		3,500
II 固定負債	2,522	2,752	229	9.1	2,407
1. 退職給付引当金	1,541	1,321	△219		1,479
2. その他	981	1,430	448		928
負債合計	34,378	35,489	1,111	3.2	23,051
(純資産の部)					
I 株主資本	38,459	39,831	1,371	3.6	35,227
1. 資本金	3,209	3,288	79	2.5	3,209
2. 資本剰余金	3,000	3,079	79	2.6	3,000
3. 利益剰余金	32,255	33,470	1,215	3.8	29,023
4. 自己株式	△5	△7	△1	27.8	△6
II 評価・換算差額等	1,021	672	△349	△34.2	1,079
1. その他有価証券評価差額金	752	594	△157	△20.9	742
2. 為替換算調整勘定	268	77	△191	△71.2	336
III 少数株主持分	3,623	3,851	228	6.3	3,662
純資産合計	43,104	44,355	1,250	2.9	39,969
負債純資産合計	77,482	79,845	2,362	3.0	63,020

(2) (要約) 四半期連結損益計算書

(単位：百万円、%)

科 目	前年同四半期 (平成19年12月期 第3四半期)	当四半期 (平成20年12月期 第3四半期)	増 減		(参考) 前期 (平成19年12月期)
	金 額	金 額	金 額	増減率	金 額
I 売上高	78,092	83,033	4,941	6.3	89,354
II 売上原価	45,111	48,925	3,813	8.5	53,099
売上総利益	32,981	34,108	1,127	3.4	36,254
III 販売費及び一般管理費	21,853	23,513	1,660	7.6	30,929
営業利益	11,127	10,595	△532	△4.8	5,324
IV 営業外収益	344	374	29	8.7	470
V 営業外費用	42	148	105	247.6	53
経常利益	11,429	10,821	△608	△5.3	5,741
VI 特別利益	24	3	△20	△84.7	120
VII 特別損失	16	339	322	1950.4	231
税金等調整前 四半期(当期)純利益	11,437	10,485	△951	△8.3	5,630
税金費用	5,048	4,311	△736	△14.6	2,433
少数株主利益	383	329	△54	△14.2	423
四半期(当期)純利益	6,005	5,844	△161	△2.7	2,773

(3) (要約) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 百万円)

	前年同四半期 (平成19年12月期 第3四半期)	当四半期 (平成20年12月期 第3四半期)	(参考) 前期 (平成19年12月期)
区 分	金 額	金 額	金 額
I 営業活動によるキャッシュ・フロー			
1. 税金等調整前四半期(当期)純利益	11,437	10,485	5,630
2. 減価償却費	897	1,090	1,227
3. 売上債権の増加額	△12,875	△8,995	△970
4. 棚卸資産の増減額(△は増加)	△1,465	333	△2,142
5. 仕入債務の増加額	5,804	3,334	742
6. その他	3,808	4,741	△72
小計	7,607	10,990	4,415
7. 利息及び配当金の受取額	108	104	156
8. 利息の支払額	△1	△20	△5
9. 法人税等の支払額	△2,059	△2,040	△2,389
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,655	9,033	2,177
II 投資活動によるキャッシュ・フロー			
1. 有価証券の取得による支出	△232	△268	△245
2. 有価証券の売却による収入	1,419	429	1,458
3. 有形固定資産の取得による支出	△669	△1,141	△921
4. 有形固定資産の売却による収入	35	18	37
5. 投資有価証券の取得による支出	△622	△943	△796
6. 投資有価証券の売却による収入	7	14	6
7. 連結範囲の変更を伴う子会社株式の 取得による支出	—	△115	—
8. 貸付けによる支出	—	△200	—
9. 定期預金の預入れによる支出	—	△639	△1,800
10. 定期預金の解約による収入	—	800	2,100
11. 関係会社清算による収入	—	23	—
12. その他の投資活動による支出	△69	△42	△224
13. その他の投資活動による収入	19	23	24
投資活動によるキャッシュ・フロー	△111	△2,041	△360
III 財務活動によるキャッシュ・フロー			
1. 短期借入金の純増減額	15	29	179
2. 長期借入れによる収入	—	460	—
3. 長期借入金の返済による支出	—	△532	—
4. 社債償還による支出	—	△30	—
5. 株式の発行による収入	147	158	147
6. 自己株式の取得による支出	△1	△1	△1
7. 配当金の支払額	△1,191	△1,397	△1,191
8. 少数株主に対する配当金の支払額	△121	△135	△121
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,152	△1,448	△988
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	19	△129	40
V 現金及び現金同等物の増減額	4,410	5,415	869
VI 現金及び現金同等物の期首残高	12,743	13,612	12,743
VII 現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	17,154	19,028	13,612

(4) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前年同四半期 (平成19年12月期第3四半期)

(単位:百万円)

	家庭用品事業	総合環境衛生事業	計	消去又は全社	連結
売上高及び営業損益					
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	66,589	11,502	78,092	—	78,092
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	439	107	546	(546)	—
計	67,028	11,610	78,639	(546)	78,092
営業費用	56,588	10,428	67,016	(52)	66,964
営業利益	10,440	1,182	11,622	(494)	11,127

(注) 1. 事業区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2. 各事業の主な内容

- (1) 家庭用品事業 家庭用品(殺虫剤及び日用品(洗口液、義歯関連用品、歯磨き用品、入浴剤、芳香洗剤等))、防疫・農林畜産薬剤、海外向け殺虫剤原材料の製造販売及び仕入販売
- (2) 総合環境衛生事業 工場、病院等の衛生管理サービス

当四半期 (平成20年12月期第3四半期)

(単位:百万円)

	家庭用品事業	総合環境衛生事業	計	消去又は全社	連結
売上高及び営業損益					
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	71,158	11,874	83,033	—	83,033
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	420	112	533	(533)	—
計	71,579	11,987	83,566	(533)	83,033
営業費用	61,596	10,849	72,446	(7)	72,438
営業利益	9,983	1,137	11,120	(525)	10,595

(注) 1. 事業区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2. 各事業の主な内容

- (1) 家庭用品事業 家庭用殺虫剤、日用品(洗口液、義歯関連用品、歯磨き用品、入浴剤、芳香洗剤等)、ペット用品、防疫・農林畜産薬剤及び海外向け殺虫剤原材料の製造販売及び仕入販売
- (2) 総合環境衛生事業 工場、病院等の衛生管理サービス

(参考) 前期 (平成19年12月期)

(単位: 百万円)

	家庭用品事業	総合環境衛生事業	計	消去又は全社	連結
売上高及び営業損益					
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	74,041	15,313	89,354	—	89,354
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	593	170	764	(764)	—
計	74,635	15,484	90,119	(764)	89,354
営業費用	70,161	13,960	84,121	(91)	84,029
営業利益	4,473	1,523	5,997	(672)	5,324

(注) 1. 事業区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2. 各事業の主な内容

- (1) 家庭用品事業 家庭用品(殺虫剤及び日用品(洗口液、義歯関連用品、歯磨き用品、入浴剤、芳香洗剤等))、防疫・農林畜産薬剤、海外向け殺虫剤原材料の製造販売及び仕入販売
- (2) 総合環境衛生事業 工場、病院等の衛生管理サービス

[所在地別セグメント情報]

前年同四半期(平成19年12月期第3四半期)

全セグメントの売上高に占める日本の割合が90%を超えるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

当四半期(平成20年12月期第3四半期)

全セグメントの売上高に占める日本の割合が90%を超えるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

(参考) 前期(平成19年12月期)

全セグメントの売上高に占める日本の割合が90%を超えるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

[海外売上高]

前年同四半期(平成19年12月期第3四半期)

海外売上高が連結売上高の10%未満のため、海外売上高の記載を省略しております。

当四半期(平成20年12月期第3四半期)

海外売上高が連結売上高の10%未満のため、海外売上高の記載を省略しております。

(参考) 前期(平成19年12月期)

海外売上高が連結売上高の10%未満のため、海外売上高の記載を省略しております。